

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

| | | |
|---------------|------------------------|------|
| 団 体 名 | 公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団 | |
| 施 設 名 | 調布市せんがわ劇場 | |
| 助 成 対 象 活 動 名 | 普及啓発事業 | |
| 内定額(総額) | 5,398 | (千円) |
| 公 演 事 業 | 0 | (千円) |
| 人 材 養 成 事 業 | 0 | (千円) |
| 普 及 啓 発 事 業 | 5,398 | (千円) |

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
|----|---|-------------------------|---|----------|-------|
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 市民参加演劇公演 ドキュメンタリー・シアター 「ここにある物語 2019」 | 令和元年6月30日 ～11月3日 | 出演：市民参加者31名、 青木まさと、今井美佐穂、中原くれ あ 総合演出：柏木俊彦 | 目標値 | 1,000 |
| | | せんがわ劇場 | | 実績値 | 1,900 |
| 2 | せんがわ劇場 演劇アウトリーチ | 令和元年6月 ～令和2年3月 | 講師：DEL メンバー（せんがわ劇場 演劇アウトリーチを実施する演劇 専門家グループ） | 目標値 | 1,500 |
| | | せんがわ劇場他 | | 実績値 | 1,520 |
| 3 | 伝統芸能ワークショップ おらほ亭せんがわ落語会 | 令和元年10月3日 ～令和2年1月11日 | ワークショップ講師：柳家三語楼他 出演：伝統芸能ワークショップ参加 者、柳家小さん、柳家小せん、柳家 三語楼 | 目標値 | 200 |
| | | せんがわ劇場他 | | 実績値 | 161 |
| 4 | サンデー・マティネ・コン サート～午後への前奏曲 ～ | 令和元年4月14日 ～令和2年3月29日 | 出演：蠣崎耕三、鈴木秀美、ヴァン サン・リュカ、本條秀慈郎他 企画：松井康司、合田香 | 目標値 | 2,000 |
| | | せんがわ劇場 | | 実績値 | 2,092 |
| 5 | ファミリー音楽プログラ ム | 令和元年6月8日、 11月23日 | 出演：永井由比、村田 厚生、小久保 まゆき、桐朋学園大学学生 | 目標値 | 200 |
| | | せんがわ劇場 | | 実績値 | 172 |
| 6 | 音楽アウトリーチ | 令和元年6月 ～令和2年2月 | 出演：桐朋学園大学学生 解説：合田香 | 目標値 | 500 |
| | | 市内保育園、児童館他 | | 実績値 | 439 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |

2. 自己評価

(1) 妥当性

| 自己評価 | | | | | | | |
|--|-----------------------|----------------|----------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|----------------|
| <p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> | | | | | | | |
| <p>調布市せんがわ劇場の指定管理を担う調布市文化・コミュニティ振興財団では、芸術・文化が持つ3つの価値（本来的価値・共同体的価値・便益的価値）を実現し、芸術・文化の力をもって社会課題を解決するため5つのミッション（Ⅰ豊かな人間性を育む芸術・文化の推進 Ⅱ地域コミュニティの活性化と文化プラットフォームの形成 Ⅲ利用者中心の弾力的な施設管理運営 Ⅳ誰もが参加できる創造・活動の場 Ⅴ地域の多様な特色を活かした調布ブランドの形成）を定めています（調布市せんがわ劇場指定管理計画書）。</p> <p>加えて、調布市せんがわ劇場は「市民・地域の文化が生まれ、まちの誇りとなる劇場」を将来のあるべき姿（ビジョン）と前述の財団のミッション達成に向けて、①市民・地域と共に地域の文化芸術ネットワークを構築する ②舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げるプログラムを提供する ③舞台芸術を通じ次世代を担う子どもたちや舞台芸術活動者を豊かに育てる ④市民の舞台芸術活動を活性化し、利用者の視点を大切に施設貸出事業を行う という4つの項目を劇場の使命と定め、事業を展開しています（調布市せんがわ劇場運営プラン）。</p> <p>また、当劇場がある仙川地域は住宅や商業施設が集積し、にぎわいと活気に満ちた地域であるとともに高等教育機関や文化施設が複数所在し文化芸術への関心が高い市民が多く行き交う地域です。</p> <p>本助成に採択された事業群（普及啓発事業）は、前述の地域特性を事業実施の素地としながら、殊に財団のミッションⅠ、Ⅱ、Ⅳと劇場の使命②、③の達成に主眼を置き事業内容を構成し、当初の予定から大きな変更を生じることなく事業を進めることができました。</p> <p><採択事業> 凡例 採択事業名：該当する財団のミッション／該当する劇場の使命</p> <table><tbody><tr><td>市民参加演劇公演：Ⅰ、Ⅳ／②</td><td>せんがわ劇場演劇アウトリーチ：Ⅰ、Ⅳ／②</td></tr><tr><td>伝統芸能ワークショップ：Ⅰ、Ⅱ／③</td><td>サンデー・マティネ・コンサート：Ⅰ、Ⅳ／②</td></tr><tr><td>ファミリー音楽プログラム：Ⅰ、Ⅱ／③</td><td>音楽アウトリーチ：Ⅰ、Ⅳ／②</td></tr></tbody></table> | | 市民参加演劇公演：Ⅰ、Ⅳ／② | せんがわ劇場演劇アウトリーチ：Ⅰ、Ⅳ／② | 伝統芸能ワークショップ：Ⅰ、Ⅱ／③ | サンデー・マティネ・コンサート：Ⅰ、Ⅳ／② | ファミリー音楽プログラム：Ⅰ、Ⅱ／③ | 音楽アウトリーチ：Ⅰ、Ⅳ／② |
| 市民参加演劇公演：Ⅰ、Ⅳ／② | せんがわ劇場演劇アウトリーチ：Ⅰ、Ⅳ／② | | | | | | |
| 伝統芸能ワークショップ：Ⅰ、Ⅱ／③ | サンデー・マティネ・コンサート：Ⅰ、Ⅳ／② | | | | | | |
| ファミリー音楽プログラム：Ⅰ、Ⅱ／③ | 音楽アウトリーチ：Ⅰ、Ⅳ／② | | | | | | |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> | | | | | | | |
| <p>採択された事業においては、前述した調布市文化・コミュニティ振興財団が目指している芸術・文化が持つ3つの価値（本来的価値・共同体的価値・便益的価値）の実現のうち、特に芸術・文化の本来的価値（文化的意義）、共同体的価値（社会的意義）の体現を目指して事業を実施し、財団のミッション及び劇場の使命に鑑みながら振り返りを行うとともに、継続的かつ発展的な事業展開を図っています。</p> <p>●市民参加演劇公演の例</p> <p>平成31年度実施事業にキャストとして参加した子どもたちを対象に「同窓会」と称して継続的な交流を図ります。事業参加による参加者の変化をモニタリングし、青少年の心の育成に関する効果測定や、劇場への意見・要望や市民ニーズの現状についてヒアリングを行い、次回実施に向けた事業の文化的、社会的意義に関する検証及び質の向上を図っていきます。</p> <p>●サンデー・マティネ・コンサートの例</p> <p>平成31年度の実施結果と来場者アンケートから得た市民ニーズを基に、令和2年度においては同事業の関連事業を新規で立ち上げました。また、当財団が指定管理を担っている他施設との連携を深める施策を通して、当事業がより幅広く、かつ多彩な芸術・文化に出会うきっかけとなる事業展開を図っています。</p> | | | | | | | |

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●採択事業（普及啓発事業）について、「舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げる」という大目標を設定し、大目標を達成するための小目標を設定しました。設定した小目標の成果指標と結果は以下の通りであり、総じて成果指標で定めた目標値を達成することができました。

■大目標

「舞台芸術を楽しむ市民の裾野を広げる」

■小目標1：市民の日常生活が舞台芸術によって豊かになり、継続的に劇場に足を運んでもらう

→ **成果指標** サンデー・マティネ・コンサートにおける来場回数が2回以上の方の数を年間（18回）で1,200人に増加させる（現状 約1,150人）。

結果：1,755人（アンケートにおけるリピーター率を来場者実数に反映）

（積算根拠）来場者数（全16回）：2,092人 アンケート回答者：1,539人 回答率：73.6%

アンケートにおけるリピーター実数：1,291人 アンケートにおけるリピーター率：83.9%

■小目標2：子どもたちが、舞台芸術とふれあい体験する機会を提供する

→ **成果指標** 年間での事業への子どもの参加者数を1,600人に増加させる（現状 約1,500人）

結果：1,937人（来場者アンケートにおける高校生以下の来場者割合等からの算出）

（積算根拠）

①市民参加演劇：82人（参加キャスト、公演来場者）

②演劇アウトリーチ：1,520人

（はしうち教室、調布市立第七中学校、調布市立八雲台小学校ユーフォー&PTA 主催事業、調布市立滝坂小学校1～6年および特別支援学級での学芸会指導、白百合女子大りすぶらんあんふあん、調布市立小学校教育研究会児童文化部、放課後デイサービスわかば仙川店）

③おらほ亭：25人（ワークショップ参加者、公演来場者）

④サンデー・マティネ・コンサート：39人（公演来場者）

⑤ファミリー音楽：101人（プログラム参加者）

⑥音楽アウトリーチ：170人（上布田保育園、佐須児童館、緑ヶ丘小学校）

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間が適切で当初の計画通りに進んだか】

やむを得ぬ開催中止（台風、新型コロナウイルス等）が一部事業で生じたものの、概ね当初の計画通りに進めることができました。

【事業費が適切で当初の計画通りに進んだか】

上述の理由による事業の開催中止のほか、演出プランの大幅変更やスケジュール都合による計画変更のため事業費の変更が一部の事業で発生しました。

天災等により事業の開催中止はやむを得ないものの、当初から入念な計画立案が課題として残りました。補助金の適切な使用のため、課題事項として引き継ぐとともに事業のPDCAサイクルに沿って改善を図っていきたいと考えています。

【入場者数の見込みと実績の乖離】

各事業とも入場者数と見込み実績の大きな乖離はありませんでした。これまでも継続して実施してきた事業であり、入場見込み数は総じて会場定員数と過去実績を基準から試算しています。

一方で、サンデー・マティネ・コンサートについては定員を超えた回が半数近くあり、開場前から長蛇の列でホール内に入れられない状況も見受けられたため、できるだけ多くの方が鑑賞出来るような創意工夫が必要であると認識しています。

また、ファミリー音楽プログラムのような無料の子ども向け事業についてはある気軽に参加できる反面、一定程度のキャンセルが発生してしまうことから、キャンセルを減らす取組みを検討しています。

【チケット等販売料金】

一部事業について、当初計画から入場料金について変更（値上げ）を行いました。当財団が実施する他事業との比較から適正化を図ったものであり、変更した事業における来場者アンケートでも入場料金についての意見は見られませんでした。

一方で、ワンコイン（500円）で参加できる有料コンサートについては「安すぎる」という意見も散見されるため、検討が必要であると認識しています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当劇場は自己評価一妥当性の項で記述のとおり、「市民・地域の文化が生まれ、まちの誇りとなる劇場」という将来のあるべき姿（ビジョン）に向かい、4つの使命を定めて事業を展開しています。

ビジョンに謳う「市民・地域の文化」を生み出すためには、地域人材の活用や地域との協働・連携の視点が不可欠です。そして地域資源と劇場のビジョンや使命を理解した専門人材らによる事業制作こそが、当劇場ならびに仙川地域のオリジナリティを生み、「まちの誇り」と思える文化拠点となるための手段と考えています。

以上の理由から、採択事業については地域との連携を下支えとしながら、地域資源（高等教育機関や市民団体）の活用や市内在住アーティストの招聘、当劇場主催事業参加経験者らにより構成されたアーティストグループらの参画により事業を展開し、地域の文化拠点として、地域や劇場が育んだ文化人材による地域の芸術・文化の裾野拡大や次世代育成事業を行いました。

●市民参加演劇公演

参加者で市内のまち歩きをするなどして、市民とともに一から作品創作を行いました。本事業の来場者アンケートでは「調布市民であることに誇りをもてた」「調布に生まれて良かった」といった趣旨のコメントが多く寄せられました。加えて、参加者（キャスト）アンケートでも、ほぼ全員が「また参加したい」と回答しています。

このことは市民協働による事業展開が文化芸術の普及に加え、地域への愛着を深める作用や地域における芸術・文化の活動者の拡大につなげることができる可能性を示しており、劇場が継続的に取り入れてきた市民協働の視点が有効に機能した成果であると言えます。

●せんがわ劇場演劇アウトリーチ

講師を当劇場主催の演劇コンクール出身者らにより構成されたアーティストグループであるDEL（ドラマ・エデュケーション・ラボ）が務めました。地域を知り、劇場を理解するアーティストが地域の子どもたちに向けてアウトリーチ事業を行い、非画一的で地域性を有したアウトリーチ事業が出来たと考えています。

●伝統芸能ワークショップ

調布市内で活動するアマチュア市民団体の協力を得てワークショップを行いました。殊に伝統芸能は次世代継承の危機が叫ばれていますが、当事業では市民団体がスタッフとして参加し、参加者には伝統芸能が非日常的なものではなく身近なものであることに気付いていただけました。地域人材の協力により、次世代の育成を目的とした事業としてより効果的な実施ができたと言えます。

●サンデー・マティネ・コンサート／ファミリー音楽プログラム／音楽アウトリーチ

サンデー・マティネ・コンサート、ファミリー音楽プログラム、音楽アウトリーチの音楽事業群については、当劇場と同地域に所在する高等教育機関である桐朋学園大学・桐朋学園劇術短期大学との連携により事業を実施しました。

殊にサンデー・マティネ・コンサートでは企画立案に関して同大学・短期大学から招聘した音楽コーディネーターを配置し、地元視点と専門的見地から親しみやすいプログラムを実施しました。サステナブルに事業を実施（平成31年度中には226回目まで実施）し、まちのランドマーク的な事業として実施することができていると考えています。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

調布市が平成 30 年度に実施した市民意識ニーズ調査では、市内における当劇場の認知度は 63.4%であり、調査実施の度に少しずつではありますが上がっており、同様に利用したことがある市民も上昇しています。

劇場が所在する調布市東部地域における認知度は 90.0%と高いものの、当財団が指定管理を担う他会館に比べ、認知度、利用者経験者の割合には改善の余地があります。

一方で、同調査では当財団が企画する事業で希望するジャンルについては演劇・ミュージカルが 40.0%で最も高く、また調布市の文化イメージに桐朋学園大学を推す声も調査では見受けられます。

以上のことから、当劇場は市内東部地域を除く全市的な認知度等について課題を残すものの、舞台芸術を専門とする劇場としての地域ニーズを十分に備えていると言え、良質な事業を展開しながら、劇場の認知度を高めていくことが地域の文化的ニーズに応える方策であると考えています。

●市民参加演劇の例

当財団の事業参加者は、40 歳以下が概ね全体の 40%と少なく、企画によっては 20%を切ることも少なくない中で、本事業の来場者アンケートでは来場者の半数以上（54.8%）が 40 歳以下であり、多くの若い世代の方々に来場していただくことができました。

また、前項で既述のとおり参加者（キャスト）アンケートでも、ほぼ全員が「また参加したい」と回答している点は、市民協働による事業展開が若い世代への文化芸術の普及に加え、よりコアな 40 歳以下の支援者の獲得につながったことを示唆しています。このことは、本事業が当財団の課題とも言える若い世代への文化芸術の普及に効果的であった証左であるとともに、若い世代と地域との接点を生み、かつ新たな角度から地域を見直すきっかけとなったことで、文化芸術を通じた地域振興を図り、当財団のミッション達成を押し進める効果があったことが伺えます。

●サンデー・マティネ・コンサートの例

サンデー・マティネ・コンサートをはじめとする音楽事業においては、市内の文化的イメージにも挙げられる桐朋学園大学や桐朋学園芸術短期大学との協力関係を多分に活用して事業を企画・展開しました。

サンデー・マティネ・コンサートは市民が劇場へ足を運ぶきっかけ作りの事業として長く実施してきた事業であり、平成 31 年度の事業結果やアンケート回答を踏まえ、当財団が同じく管理運営を担う他ホールでの事業実施を計画するに至り、地域ニーズ等を踏まえた劇場・地域のリソースを投入することで実演芸術への入口としての機能を確立することが出来ていると言えます。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当劇場は平成 31 年度より当財団が指定管理を担っています。

市直営時代に策定された「調布市せんがわ劇場運営プラン」を継承しつつ、当財団の「調布市せんがわ劇場指定管理計画」に基づいて事業を実施しました。

採択事業は市直営時代から継続実施されてきた事業であるとともに、専門嘱託員や事業ディレクター、コーディネーターの配置は当財団が指定管理を担う他ホールにはない組織体制であり、また意思決定や事業運営プロセスの違いも散見されます。

しかしながら直営から指定管理への移行に伴うこれらのギャップは混乱ではなくむしろ組織として厚みと幅を生み、組織として新たなリソースを得ることができたと考えています。

事業運営に関しては、当劇場と他ホールの一体活用による相乗効果と規模的なスケールメリットとして、事業スケールの地理的拡大による新たな賑わいの創出ができていると言えます。

また、平成 30 年度より組織したDEL（ドラマ・エデュケーション・ラボ／当劇場主催の演劇コンクール出身者らにより構成された若手アーティストグループ）が、平成 31 年度も演劇アウトリーチ事業の講師を担いました。

ティーチング・アーティストとしてのスキルも向上しているほか、グループとしての組織化が進んだことで当財団の協力者として当劇場の演劇アウトリーチ事業だけではなく、当財団が実施する他事業でも広く活躍が期待できる可能性を示しています。

加えて、採択事業であるアウトリーチ事業や市民参加演劇等の多様な参加型事業は、一過性の事業来場者ではなく、当財団の理解者かつ継続的な支援者を生みだすことができる事業であると言えます。市民参加演劇事業に関連して実施する「同窓会」はその劇場側からのアプローチのひとつでもあり、事業を起点として当財団が広く地域において芸術・文化の振興を図る事業を実施するにあたっての基盤強化へとつなげていきたいと考えています。